

みんなで調べよう！ 東京近郊のサギ類の繁殖地の現状

アオサギ研究者 白井 剛

人を恐れなくなった都会のサギたち

アオサギ〔写真〕などサギ類は、その多くの種類が繁殖期に集団繁殖地を形成します。繁殖地ができるのは、人や他の動物による攪乱が少なく、安定した採食場所が近い、樹林や島状の場所などです。サギ類の食べ物は主に魚であり、川や池での魚の豊富さが繁殖地の形成要因のひとつと考えられています。

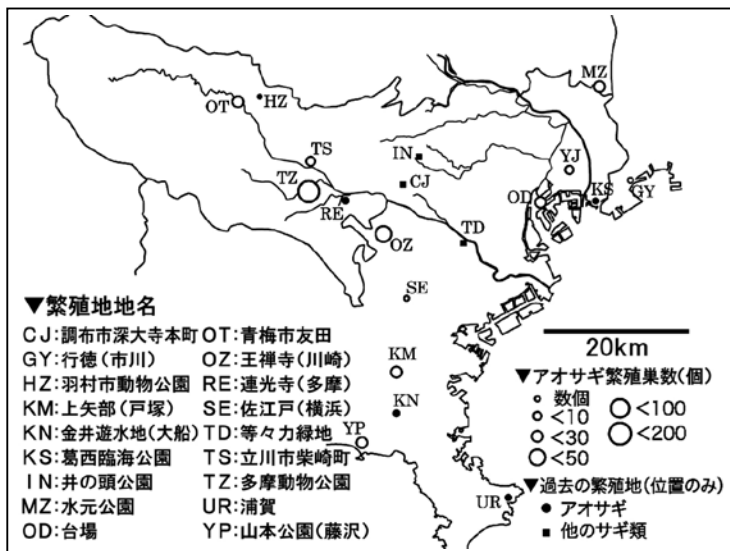
近年は100巣以上が集まる大型の繁殖地よりも中・小規模の繁殖地がよく見られています。また住宅地や、動物園や管理釣り場などの近くに残る林といった、人の生活や人為的環境の近くに繁殖地ができています。特に都会では、人をあまり怖がらずに、人の近くの水辺で魚などをとる個体が増えてきているようです。

私が研究フィールドにしている多摩川中流域では、1995年ごろからアオサギの繁殖が観察されていて、1996年には多摩市連光寺で繁殖がはじまりました(白井 1999)。その後2000年までに最大で50巣程度が観察されてきましたが、最後の年に繁殖地が放棄され、多摩動物公園の園内に移りました。コロニー移転後は、2007年にかけて210巣余りまで増え、現在では毎年150巣程度で安定して推移しています。この営巣数の増加には密度依存的な増加がみられました(shirai 2013)。近年では少数ながらダイサギも繁殖するようになりました(白井 2015)。



東京・神奈川のサギ類繁殖地

筆者は東京・神奈川の都市近郊でサギ類の繁殖地の分布を毎年調べていて、昨年までに調査した繁殖地は下図のとおりです。図中の



図中の白丸の繁殖地では一部を除き毎年繁殖が確認されています。例えば、第六台場ではカワウの繁殖地の一部で2000年ごろからアオサギの繁殖を確認しています。この台場では1984年にダイサギ、コサギ、ゴイサギの繁殖地として調べられ(花輪他 1985)、1990年にはダイサギのみの繁殖が報告されています(金井 1990)。2008年にはアオサギ、ゴイサギ、コサギ、ダイサギの繁殖地として報告されています。

また、立川市では2011年から数巣、後に10巣程度の小規模な

アオサギ単独の繁殖地ができ(白井 2014)、2015年には青梅市内に繁殖地ができ繁殖経過が詳しく調